

ひとりぼっちの労働者をなくそう 「居場所」としての労働組合としての役割を 仲間を増やして次のステップへ



地域労組こうとう 第17回定期大会 30代の保育士 女性の書記長誕生

地域労組こうとうは9月27日、第17回定期大会を開催しました。大会には弁護団やCU東京本部・白滝書記長やCU江戸川・新木書記長ら来賓・争議団10名と執行部含む組合員50名の合計60名が出席し成立しました（委任状は別に157人）。

大会は議長に東大病院交換手職場の石井知美さん、選挙運営委員に今橋杏子さん、資格審査委員に相楽哲也さんを推薦してはじまりました。

松井書記長は報告の中で組合員が8月30日現在、360人になったことが報告されました。地域労組こうとうが31人の組合員で結成して16年。江東区労連でのナンバー3の大単組に発展してきました。

松井書記長が東京地評で専従として新たな任

務につくという組合にとってはショッキングな出来事もありましたが、新たな書記長に30代の女性の保育士・今橋杏子さん、執行委員長にはベテラン・新野好雄さんをはじめ、総勢21人の執行部を選んで大会は終了しました。大会後は恒例の懇親会。同じ場所でビールやオードブルを囲んで50人近くが交流、その場で新たな加入者もあり、大盛り上がりでした。

地域労組こうとうに寄せられる労働相談で介護職や保育士・看護師などケア労働者の相談が相次ぎました。いま「ケア労働者ユニオン」を地域労組こうとうに分会として立ち上げようと検討中です。

●新役員は以下の通りです

執行委員長	新野好雄
副委員長	小倉一男 清水英明 名越秀和
	三輪佳子
書記長	今橋杏子

書記次長 田辺陽子 山下春樹 中村元
田村優香
会計 加藤桃子
執行委員 青木正憲 入江由美子
川村好正 古川敏也
清水のり子 田村公広
松井優希 見上成宜峻
柳沢孝史
会計監査 諸隈智子

組織拡大で表彰 東京地評第24回定期大会



東京地評は10月28日、第24回定期大会を墨田区内で開きました。

ジェンダー平等、全ての労働者の大幅賃上げと最低賃金の底上げや公契約条例の推進、雇用の安定と労働時間短縮で人間らしく暮らせる社会の実現をめざすなどが討論され、一年間の方針を確立しました。岩田書記次長が、CU東京を代表して組織作りと職場要求など、発言しました。

CU東京は、組織現勢実増の部で、この一年間の組織拡大の顕著な成果について、昨年に続いて表彰されました。

CUあだち第13回年次総会開く 大きな成果を 持ち寄り盛会に終わる

9月13日（土）東京土建足立支部会館にてCUあだち定期総会が開かれました。

今年度の活動をふりかえり、来年度に向け



た活動方針を採択しました。

労働相談の件数は年々増加しており、働く者の「最後の砦」「駆け込み寺」としての役割がCUあだちに求められていると全員で認識を共有しました。

総会初参加の組合員も団交間近の近況を報告し「みなさんの状況を知って勉強になった。自分のことが解決したら他の方の助けになりたい」と力強く発言しました。

組織人員も150名に達し、一日も早く200名の組合をめざします。労働相談も増えてきました。

●新役員は以下の通りです

執行委員長	齊藤伸一
副委員長	館幸雄 中島優次
書記長	高島章寿
書記次長	増田翔
会計	石神俊文
執行委員	平田潤 松館寛 松原豊子 水野典人 栗原和彦 飯塚徹 山川裕佳 及川真由美 野畑時木恵 中川ゆい子 太田耕一
会計監査	石川直美 増子今朝男

準備から本格期間に向かう 「秋の拡大月間」

「秋の拡大月間」は、いよいよ準備期間を経て本格期間へ向かいます。

加入の特徴としては、ちよだが大手企業からの職場加入で超過達成しています。港も超過達成です。文京、中野でも職場からまとまった加入があります。足立では新たな分会をつ

くり、さらに加入を広げています。

前進する職場での組織・分会づくり

【あだち】「警備員の待機時間は労働時間である」との地裁判決勝ち取り 数年間の未払賃金600万、更に2回目に640万の未払問題の決着を果たしたセントラル警備職場は9月に分会を結成しました。また、裁判闘争を進める井ノ口病院では9人の分会が中心になってたたかっ

ています。

【中野】大手クレジット会社の電話オペレーターパート職員が16年賃上げ無しの時給アップを求め5人の職場組合員が10月中に2回目の団交をたたかう予定。

【ちよだ】大手コンサルタント業(旧監査法人)デロイトトーマツの職場で6人が分会を結成し、懲戒処分、団交拒否、ハラスメント行為などとたたかっています。

(秋の拡大月間ニュースより)

ベトナムへDD11-2号を訪ねる旅

No. 1

CU東京品川支部書記長 佐藤盛雄

2025年3月2日朝9時半に直行便で成田空港を発ち、ベトナムの首都ハノイに向け日本ベトナム友好協会東日本鉄道支部の訪問団(佐藤は元国労大井工場支部委員長として)14名の9日間の旅が始まった。この旅の目的は、ベトナム戦争に勝利し1977年に「全交運号」と名付けベトナムの復興を願って、国労が中心となってカンパを集めて贈ったDD11-2(ディーゼル機関車)がハノイ郊外のザーラム工場で、日本ベトナム友好協会東日本鉄道支部の訪問団により発見された。東日本鉄道支部は静態保存の資金援助等努力を重ね、2023年2月に修復完成した。

DD11は全部で9輦製造されて、北九州に保存されていた日本にあるDD11が'08年2月に解体され、今は日本には存在しません。ベトナム戦争時にジェット燃料を米軍横須賀基地に搬入したDD11-2が時空を超え、ザーラム工場に保存されていたことは、反戦の闘いを含め歴史をめぐる奇跡の連続でした。今回、この機関車がハノイのニンビン駅に展示されているのを見学し、ベトナム国鉄労働者と交流する旅です。数回に分けて旅の様子を報告します。

ベトナムと日本は2時間の時差があり、2日の午後ハノイ空港についてからハノイのホテルへ向かいましたが、まわりの景色は日本の田舎の様でした。バスの中で注意事項として「生水は飲まないでペットボトルの水を飲むこと、氷もホテル以外の氷はダメ」と言われました。夕食のビールはパラマウントビールが出て、日本のサッポロビールに似ていました。ベトナムには各地域のビールがあり、ハノイ、ダナン、サイゴンの缶ビールを飲む事ができました。



全労連 「労働運動交流集会2025 (レバカレ=レイバーユニオンカレッジ)」 労働運動の未来は誰がつくるか



全労連の「労働運動交流集会2025 (レバカレ=レイバーユニオンカレッジ)」は10月11~13日、東京京橋において約700人が参加して開かれました。今回が初開催です。

3つの全体会(シンポジウム、トークセッション)と70の分科会が設けられ、労働組合の担い手を広げ、未来を語り合う、組織化・運動課題などを実践的に交流しました。12日は、地域労組こうとうの松井優希さんが、労働相談を通じて組織拡大を進めてきたことを報告。要求実現後に脱退する問題は中核となる人をつくることで「打開できる」と話しました。

アメリカの運動家エレン・フリードマンさんは「労働相談を個人の問題として解決するのではなく、他に同じ問題に直面している人はいないかと問い、他の人も巻き込んで運動をつくるのが大切」と強調しました。

CU東京は新宿一般や青年ユニオン、埼玉、神奈川の仲間とともに分科会を二つ運営、「ローカルユニオンの未来」は35人、「労働相談活動をどう広げるか」は40人が参加。沖縄、京都、岩手など地方組織からも参加があり、経験の交流と悩み・課題を話し合いました。山形からは学生バイトの組織化の経験、佐賀からは20年の歴史とアマゾンでの闘いの経験などが発言されました。

11・9 東京ジャック青年大宣伝行動

11月9日(日) 14:00~15:30

池袋東口サンシャイン60 通り入り口前
五差路交差点

各青年部・職場からのリレートーク。

プラカードでアピール、シールアンケート、チラシ配布などを行います。

第11回

はたらく女性の東京集会2025

11月9日(日) 13:30~16:30

エデュカス東京7階ホール

記念講演 小畑雅子さん(婦団連会長)

ジェンダー平等をすすめるために

私たちができること

文化行事 大熊啓さん

(シンガーソングライター)

踏まれても付いてくる下駄の雪と揶揄されていた公明党は、下駄がすり減ってスリリと落ちた。下駄もすぐ維新に鼻緒をすげ替える。大阪都構想では対立したのに、衆院議員定数削減を餌に野合した。議員が減れば国民と政治の接点は狭まる■高市新総理は「働いて、働いて、働いて」と、自民党総裁の就任あいさつで強調した。この人が「働く」と軍備拡張にまっしぐら、アジアと軋轢おこす危険さがある。裏金議員救済にいち早く「働いた」■総理は「労働時間規制の緩和」を掲げ、「強い経済の実現」を唱えている。アベノミクス再来狙うが、日経新聞でも労働分配率の低下に警鐘を鳴らす。「10年間で経常利益は1.8倍に膨らむ。人件費は1.2倍にとどまる」と書き、大企業が「最高益、現預金は260兆円」との見出し(10/2付)■大手カード会社で働く女性パートたちが次々とCU東京に入った。正社員には社内組合があるがパートは入れない。賃金がずっと上がっていない非正規労働者の組織化は急務だ。